



夢中になって取り組み、可能性を拓く

梅原小学校には「なかよしチャレンジ」という取組があります。鉄棒、一輪車、マット運動、フラフープ、雲梯、登り棒、平行棒、ボール運動、縄跳び、竹馬。これらの運動について、それぞれの技の難易度によって段位が設定されていて、子どもたちは「名人」を目指して、休み時間や体育の時間を使って練習を重ねます。その中の一つの運動をテーマとして、異年齢による小集団の仲間と取り組むのが「なかよしチャレンジ」です。低学年の児童にとっては、目の前に上級生のお手本があり、見て学んだり、技のコツを教えてもらったりすることができます。上級生は、お手本を見せるのはもちろん、下級生のつまずきを見つけ、それを克服する方法を自分の経験をもとにアドバイスします。子どもたちが自己有用感を高める経験のできる大切な取組と捉えています。

さて、12月に入り、チャレンジ運動の一つの「一輪車」が、2年生を中心とした一部の児童の間でブームになっています。ある日の業間休みの校庭で「校長先生、肩をかしてください。」と、一輪車を手にしたある児童に声をかけられました。彼は、私の肩をつかみながら一輪車にまたがり、一緒に歩く速さを私に伝えます。乗っては倒れを繰り返しながら、いろいろなことを自分に言いかけたり、私に思いを伝えます。「できないと思ったらできないんだよ。」「下を向いちゃだめ。前を見て。」「こぎ出すときに、ぎゅーんと前にかがむんだよ。」「3年生になったら、グラウンド一周できるようになっていたい。」

学校で乗れる自信がついて、「家でお母さんに乗れるところを見せよう！」と帰った翌朝、家でうまく乗れなかったと言い、練習を始めました。学校でも前日のように乗れなくなっている自分にくやしがりながらも、自分を励まし、あきらめず

に練習し続けて自信を取り戻していきました。

子どもは、夢中になれるものに出会ったとき、その分野についての能力を飛躍的に開花させ、短時間で驚くほど伸ばさせます。その時の彼らの中には、自分ができている姿が鮮明にイメージされていて、そこに到達するための段階的な目標が具体的に見えているのだと思います。どうしたらできるようになるのかを自分の中で突き詰めて考えている時に入ってくる周りからの情報は、そうでないときと比べて、よりその内容が精査され、適切に取捨選択され、自分の目的に直結するものとして処理され活用されていきます。一輪車にチャレンジする彼の姿は、その営みに年齢は関係なく、目標達成への強い意志があるか否かによるということを教えてくれます。

子どもたちひとりひとりにとって、夢中になるものに出会うことができる機会をいかにつくってあげられるかが、周りにいる大人の大切な役割であると思いますし、大人にとってそれほどたいしたことではないように思われることであっても、子どもが夢中になっていることの邪魔をしないことも大切だと思います。目標をもち、そこに至るまでの手段を考え、努力して取り組む過程で自分の新たな一面を発見し、自分の内にある可能性に自信を深める。こうした、人生を自分の手で切り拓いていくためのスキルを身に付けるための貴重な経験がそこにはあるからです。

新しい年を迎えます。例年通りとはいかない状況が続きますが、子どもたちが、それぞれの未来の理想とする自分を求め続ける日々であることに変わりはありません。一年の節目となるこの時の一家団欒の場で、あらためて親子で目標を語り合う時間がとれると良いと思います。

皆様どうぞ良いお年をお迎えください。